

山城：立山（山スキー）

記録；村山

ルート名：雷鳥沢・大走りコース・山崎カール

日付：平成 25 年 5 月 7 日（火）～9 日（木）

メンバー：村山(L)・長沢

昨年から気楽な立場となったことで時間はたっぷり有り、今年の連休は前半に至仏山のムジナ沢とワル沢を計画。後半は人混みを避け連休明けに立山を計画し、7 日から長沢氏と二人立山の山スキーを思う存分楽しんできた。

6 日（月）晴れ

今日は 17 時葦崎駅に集合。長澤車で立山駅まで移動。松本から安房峠、神岡を経て立山駅まで約 4 時間。富山側から室堂への入山は、扇沢経由に比べ 5000 円近く安くなるのだが、長澤には長い距離を運転させることになった。

酒盛りの宴たけなわ 22 時過ぎに駅舎内を締め出され、駅舎軒下で寝ることに。翌朝、朝 4 時過ぎにもの凄い鳴き声で起こされるまで、軒下にツバメの巣が有ることに、気づかなかった。ツバメさんは私より起きるのが早い。

7 日（火）濃霧

連休が昨日で終わり平日ダイヤ 7 時始発のケーブルカーに乗り込む。いつの間にか人が集まり（台湾からの観光客）それなりの混雑。10 分程で美女平。ここからバスに乗り換え、かの有名な雪の回廊（雪の大谷 7 日現在 18m）を通り 8 時過ぎには室堂に到着。

今日・明日宿泊予定の秘湯の宿「みくりが池温泉」で準備を整え、雷鳥平に向かう。雷鳥荘の前から雷鳥平へ滑り込む。今年もカリカリのバーンで両足ターンが難しく、ブルークとなるので楽しくない。雷鳥沢キャンプ場テント場に残された風避けブロックを横に見て、称名川を横断する。4 月中旬からの寒気の影響か雪の量は一昨年に比べ相当多い。称名川への落ち込みが、例年より小さく感じる。ここでシールを装着。

上空の雲の動きは早く、この時間にはまだ青空が所々に残る。しかし少しずつ雲の量が増え始めてきた。連休明けで登る人は少なく、静かな雷鳥沢右岸を直登する。

ここは傾斜が強いのでジグザグに登る。この方法が体力的にも時間的にも早い。昨日降雪は無かったようで、ツボ足の跡や滑降跡が大雪面に広く残り残念。1 時間程上がると雪面も硬くなり始め、クトーを装着。

赤旗沿いに登り 2650m 当たりで稜線に出た。風が強くガスが濃い。稜線で休むわけにいけないので、稜線下の斜面を別山乗越方面にトラバースし、雪面を削りここで霧が晴れるまで休息。しかし、一向に霧が晴れない。濃いガスの中、下に見える雷鳥沢の斜面がやけに急に見える。30 分以上待っても視界が回復せず、雪面が硬い為、右岸尾根側に戻り標高を下げる。2500m 当たりから雷鳥沢へ入ると、斜度は落ち視界も回復してきたが、寒気の影響で気温が低く連休の滑



雷鳥沢へ滑り込む

降の跡がそのまま残り、これに引っかかり怖い。雷鳥沢下部に来て、漸く滑降跡が無い斜面を見つけ気持ち良く雷鳥平へ滑り込めた。しかし、「みくりが池温泉」に登り返す最後の登りはいつもながら辛い。

8日（水）快晴（強風）

予報通り朝から快晴。しかし、宿に当たる風の音はすさまじく、風はかなり強そう。今日の予定は雷鳥沢から別山乗越を経由して、黒部側の真砂沢を中間部まで滑降する。登り返して真砂岳へ上がり、大走りを滑降し雷鳥平へ戻るというロングランを計画した。年寄り二人にはチト・キツイコース。と言うことで早めの8時前に温泉を出発。

昨日より少し手前側の緩い斜面を雷鳥平へ下る。昨日の冷え込みでさらにカリカリ。斜面が硬いので、シール歩行よりアイゼン歩行が早く安全と判断。雷鳥平からアイゼンを装着し、板をザックに括り付けて出発した。風はかなり強く登るに従い煽られる様になり、耐風姿勢を強いられることもという状態になり、途中からストックをピッケルに変更した。やはりピッケルになると安心感は格段に増し、最後のトラバースも無事通過し別山乗越へ上がる。



別山乗越から見る剣岳

剣沢から乗越へ吹き上げる強風に体をもって行かれそうになる。稜線を降りてきた登山者に真砂方面の様子を聴いたが、彼らも風がひどく途中で降りてきたとのこと。風がやむことを期待し剣御前小屋の中でしばしの休憩を取る。

ゆっくりとお茶を飲みながら1時間以上待ったが、残念ながら風は一向にやむ気配が無い為、やむなく、真砂沢滑降はあきらめ雷鳥沢を滑り、滑降予定だった大走りコースを逆に登り、同じコースを滑降し雷鳥平に戻るコースに変更した。小屋の前で板を履くが斜面状況は昨日以上に固く締まっている。転倒したら雷鳥沢に吸い込まれることは間違いないので、今日も慎重な横滑りで右岸尾根へトラバース。登山者で荒れた斜面を通り過ぎ大日岳側へ行くと、少しはましな斜面が現れた。斜度も少し落ち、雪も緩み始めたので快適に下ることができるようになる。

途中から雷鳥沢の下部にコースを替えさらに緩んだ雪面を快適に飛ばす。しかし調子に乗って大転倒してしまった。が、ヘルメットと緩い斜面で助かった。

雷鳥平のテント場まで下ると大走りコースに登り直しが辛いので、状況を見ながら真砂岳方面へトラバース。快晴で太陽に向かい滑るので凹凸が分かり難い。慎重に大雪原を横切り、大走りコース尾根の下部に到着。ここで昼食としシールを張り直し12時に出発。100m程登ると急斜面となり、アイゼン歩行の方が早いと判断。アイゼンを装着した。急斜面を登り尾根の上に出る。風は若干弱くなったようだが真砂岳の



大走りを滑降

稜線はいまだに雪煙が上がっている。2700m手前でハイ松が少し顔を出しておりここで休憩。13時半も過ぎており、疲れも溜ってきたので本日の登りはここまでとする。

ここでハプニング。長澤がヘルメットを落とし、無情にも小走谷へ消えた。私も魔法瓶を落としたことが有る。また、知っている人はスキー板を流した人もいる。雪の斜面での休憩は慎重にも慎重を重ねる必要がある。

気温が上昇し雪面は漸く春のザラメ状態。登りで急斜面に感じた場所も快適に飛ばせ、アットという間に雷鳥平に降りた。昨日は温泉に戻るのに私が勘違いしてアルバイトを強いられたが、今日はルート取りも上手く割と楽に温泉まで戻れた。夕方、大日岳に落ちる夕日は美しかった。

9日(木) 快晴

今朝は移動性高気圧に完全に覆われ快晴、さらに前日までと打って変わって朝から気温は高め。今日は雄山へ上がり頂上から山崎カールを滑降する予定でいたが、昨日までの上部の斜面状態を考え室堂平から山崎カールの中段へ入り、カールを登り雪の状態を確認しながら雄山頂上を目指すコースに変更した。

温泉から室堂山荘の横を通り一ノ越へのルートを進む。2550mあたりから雄山の下部を北へ大きくトラバース。途中から斜面が急になりクトーを装着。温泉から1時間程で山崎カールの中段へ出た。雪がやや硬いので、ここでしばし時間を潰す。昨日、山崎カールに入る人は見なかったが、今日は先行に一人、後続に三人の人が見える。

雪が緩みだしたので目の前の急斜面を登り出す。これを超えると中斜面となり目標の「ローソク岩」が目に入るようになる。3日目で疲れも溜り、歩みは遅いが11時前に「ローソク岩」に到着。雄山山頂までは僅かの距離だがこの上は硬い急斜面なので今日はここまでとした。

滑降の準備を整え終わると雪はザラメ状となり、出だしの中斜面から快適の一言。この後、広い、広い斜面を快適にぶっ飛ばす。これぞ山スキー。やめられない……

みくりが池温泉で三日間の汗を流し、室堂に着くと今日も台湾からの観光客で大賑わいだった。日本人は何処にいるのかわからない。2月のニセコと言い、国内で海外旅行気分になれる変な状況だが、観光業にとってはうれしい限りだろう。円安効果で室堂の東南アジアからの旅行者は、昨年比40%と11日の新聞に書いて有ったことを思い出した。

14時半立山駅を出発。帰りも長い運転を再び長澤にお願いし、観光気分でも新緑の飛騨路、安房峠、沢渡と楽しんだ。松本で夕食を取り葦崎到着は18時半到着となった。



夕日に染まる大日岳



山崎カールを飛ばす村山

記録：

5月7日：田無（13：02）＝葦崎（17：01-17：10）＝松本夕食＝立山駅泊（21：15）

5月6日：立山駅（7：00）－美女平（7：10-7：20）－室堂（8：10-8：40）－みくりが池温泉（9：00-9：30）－雷鳥平（10：20）－雷鳥沢－2700m（13：40）－滑降－雷鳥平（14：15）－みくりが池温泉（15：30）

5月7日：温泉（7：45）－別山乗越（9：50-11：00）－滑降－雷鳥平（11：30-12：00）大走りコース（C02700m13：40-14：10）－滑降－雷鳥平（14：30）－温泉（15：20）

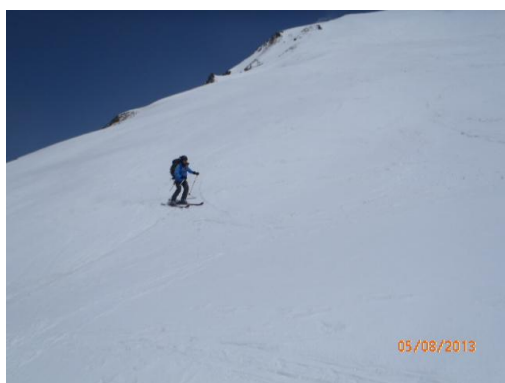
5月8日：温泉（8：00）－山崎カール－ろうそく岩 C02800m（10：50-11：00）－滑降－室堂山荘（11：20）－みくりが池温泉（11：40-12：30）－室堂（13：00）－美女平（13：45-14：00）－立山駅（14：10-14：30）－松本（夕食）－葦崎（18：20-18：55）－甲府（19：10-19：42）－武蔵小金井（21：00）－田無（21：15）



（村山）



（村山）



（村山）



（長澤）